

タケウチギングチ

Crossocerus takeuchii Tsuneki
ハチ目・ギングチバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

これまで、大野市内でのみ採集記録があったが、今回新たに福井市、越前町、敦賀市でも採集され、確認地点数が増加した。しかし、既知生息地では立枯木が伐り倒される等、生息環境が明らかに悪化している場所もあることから、絶滅危惧Ⅱ類のランクを維持。

種の特徴

体長約6mm。黒色で脚に黄色部が多い。口は銀色。クモを獲物として狩る。低地～山地に生息し、県内では9～10月に、アブラムシのついたクルミ林の下草や立ち枯れ木での採集記録がある。

分 布

本県のほか、岐阜県、愛知県、兵庫県等に分布。県内では大野市内で記録があった。今回、敦賀市天筒山、金ヶ崎、越前町越知山、城山、福井市足羽山、文殊山で確認された。

生息を脅かす要因

生態の詳細は不明であるが、照葉樹林の立枯れ木に営巣すると推定されており、そのような森林の改変が脅威となる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、羽田ら (2005)、黒川 (2002)、室田 (2003)、室田ら (2008a)、室田ら (2009b)、高木ら (2009)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○	○									○	○

タイセツギングチ

Crossocerus varus Lepeletier de Saint Farageau & Brullé
ハチ目・ギングチバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

生息確認地点数は減少した。山地性の種であり、人為的影響が及びづらいことを考えると危機的状況に瀕しているとは考えられず、環境省ランク、他県の指定状況も考慮して絶滅危惧Ⅰ類から絶滅危惧Ⅱ類にランクダウンした。

種の特徴

体長約6mm。全身黒色のハチ。赤土の露出した地面に営巣する。県内では8～10月にかけて営巣が確認されている。

分 布

北海道、本州に分布。県内では勝山市小原と大野市六本檜での採集記録がある。今回の調査では、勝山市小原峠で本種を確認したが、六本檜では確認できていない。

生息を脅かす要因

山地の中で小さなハチが営巣できる裸地はごく限られている。登山道の拡張工事等により営巣地が消失する恐れがある。営巣地周辺のブナ・ミズナラ林の改変や、地表環境を大きく改変するような歩道整備が脅威となりうる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、室田 (2002)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

ニトベギングチ

Spadicocrabro nitobei (Matsumura)
ハチ目・ギングチバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

確認地点数の増減なし。立枯木が減少し、山間部のやや朽ちた人家に営巣して生き延びている。現ランク維持。本県のほか、青森県、新潟県で減少が報告されている。

種の特徴

日本産ギングチバチの中でも大型に属し、体長は18mmに及ぶ。低山～山地に生息。枯木の虫孔に営巣し、幼虫のエサにゴマシオキシタバ、エゾシロシタバ、オニベニシタバやヤガ類の成虫を狩る。

分 布

本州に分布。県内では嶺北、嶺南の数地点で記録があり、今回、大野市荷暮、福井市足羽山、文殊山、永平寺町福平峠、越前町上戸、笈松、小浜市久須夜ヶ岳等で確認された。

生息を脅かす要因

スギ植林のために落葉広葉樹林が伐採され、営巣場所となる立枯木が減少した。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、羽田ら (2005)、羽田・井上 (2006)、環境省 (2015)、室田 (2002)、室田 (2015a)、室田ら (2008a)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○		○	○	○	○	○			○					○	○

昆虫類